

皆様

昨年6月、金沢市は、ユネスコ・クラフト創造都市の登録認定を受けましたが、早いもので、ちょうど認定1年を迎えました。これからも、創造都市・金沢にさらなる磨きをかけるべく、この3月に策定した創造都市推進プログラムに従って、各種の取り組みを推進していきたいと思えます。

さて、その取り組みの一つとして、金沢市では、先月末に、本市を代表する希少伝統工芸である二俣和紙をさらに活性化するための検討委員会を発足しました。

二俣和紙は、1300年の伝統を誇り、江戸時代には時の藩主の保護を受けて「紙すき」と呼ばれる職人が多数、和紙を作成していました。その和紙は、「加賀奉書」と呼ばれる藩主の公式儀礼等に使用される高級和紙としてその名を全国に知られていました。

その後、明治時代から昭和にかけて、機械化や洋紙の普及により、需要が急減し、1960年代以降は急激に紙すき職人は減少し、現在では市内に3事業者がいるだけになりました。

それでも和紙は、日本の伝統文化を象徴する存在であり、和紙を使用した工芸品や呉服製品はすばらしいものが多いのです。

クラフト創造都市・金沢においても、これを絶やすことは大きな損失であり、今後も貴重な技と文化を継承するため、検討組織を立ち上げました。

第1回の会合では、有識者や生産者から構成される委員から「和紙職人の後継者育成」、「和紙の用途・販路拡大」、「原材料の供給体制の整備」にて二俣和紙の再興を図ることが確認されました。今後、年度内に3回会合を開き、プログラム案を取りまとめる予定です。

今後も、クラフト創造都市・金沢は「手仕事のまち」としてこれらの取り組みを推進していきます。

それでは、皆様ますますご健勝にてご活躍されることを願って、日本国金沢市創造都市推進担当より

(バッグ・紙工芸品など)

